

すなお

令和7年1月号

発行所 天理教瀬戸路分教会

〒794-0007 今治市近見町4-5-10

URL <https://www.tenrikyo-setoji.net/>

☎ 0898-23-5004 責任者 二宮 英治

発行日 2025.1.16 通巻 No.774



会 長

明けましておめでとうございます。昨年是一年を通して勇んでおつとめいただき誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお祈りします。

世間一般では、何かにつけて「ご苦労さま」「ご苦労さま」と連呼します。もちろんその言葉が悪い訳ではありません。相手を労う言葉です。しかし、陽気ぐらしを標榜する私達天理教の信仰者は、何かあるたびに「ご苦労さま」と声掛けするのはどうだろう、、、。と若い頃から思っていました。何かをするのは苦労なのか、そのために私達は生きているのか。いや決してそうではないはず。でもそこに当てはまる良い言葉が見つかりませんでした。

そんな時に柏木庫治先生の本を読んでいて【お勇さま】という表現に出会い、これだ！と感銘を受けました。日々の全てが苦労ではなく勇みの種にならないければ、また勇の種にしなければと思いました。その言葉が昨年、年賀状を作成している時に浮かんで来て今年の皆さんへの年賀状は、【ご苦労さまではなく「お勇さま」で生きましょう】と書いて送らせていただきました。

言葉とは本当に大切なものだと思います。まずは自らが心を勇ませ、そして言葉で相手を勇ませる。その発した言葉を自らも聞き、さらに自らも勇む。これこそ、「人たすけたら、我が身たすかる」の一つの姿ではないでしょうか。

来年の1月26日には教祖140年祭が執行されます。その時に共におちばへ帰らせていただけるよう、周囲の方々に勇んで声がけををして下さい。その声によって魂が助かります。勇んでかかりましょう！



かしまのかりもの ~2

二宮 真悟

新年明けましておめでとうございます。

今年は新年を教会で迎えさせていただくことができ、正月一日から皆様にお会いすることが出来、本当に嬉しく思います。朝早くから元旦祭にお集まり頂きありがとうございました。

関西に戻ってからは、少し余裕もありましたので、大教会の剪定のひのきしんを努めさせていただきました。そうして約2日間のひのきしんを無事に終え、大教会のお当番の先生と共に食事をしている時のことです。「僕は教会のひのきしんは日々の仕事などが無事健康に続けていけるようお願いを込めながらしているんです。」と、何気なく発した言葉に、「二宮君、それは少し意味をはき違えてるね、、」と仰られ、こう続けられました。(次ページへ)

「ひのきしんは、日々元気において頂いていることや何不自由なく身体を使わせて頂いている事への感謝や御礼の気持ちで努めるものと聞かされている。二宮君がしているのは`願掛け`であって御礼ではないんだ。前者と後者では神様の受け取り方も大きく変わってくるんじゃないかな。またそうして感謝の気持ちで努める素直な心が神様はお好きで受け取って下さるんだよ。」と、お諭し下さいました。

かしもの・かりもの、ひのきしんといえ、耳にたこが出来るほど聞くお道の基本ではありませんが、うっかり踏み外してしまいました。神社などのように、つい願掛けのようにしてしまいましたが、そこがもう欲の心で、すでに頂いていることに気付くことが『かしもの・かりもの』の第一歩なんだと思いました。

昨年は結構なことに大きな事故怪我・病氣なくおいて頂きましたので、まずはその御礼と感謝の気持ちで新年は努めようと思います。昨年に引き続き、大切なことを学ぶことができました。

《教会ニュース》

教区においがけ研修会

来月28日（金）10時から14時30分 教務支庁においてにおいがけ研修会が開催されます。講師は本理仁分教会前会長婦人の杉田由紀子先生です。参加費は500円。申し込み期限は2月15日までです。女性の方にお勧めの講演となっていますので是非ともご参加下さい。よろしくお祈りします



編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。新たな年を迎え、冬の冷たい風が心地よく感じられる季節となりました。我が家にとっては、非常に充実した年末年始でした。久しぶりに娘が帰省し、家族で楽しい時間を過ごすことができました。また、受験生の息子も受験勉強に励んでいます。

先日、息子の志望校である大学を事前訪問し、大学側から詳しい説明と校内の案内を受ける機会がありました。広大なキャンパスを歩きながら、息子の目には未来への希望が輝いていました。また、合格後に住む予定の学生マンションも見学し、予約を済ませることができました。これには息子も私たち家族も非常に満足しています。今年は息子にとって新たなステップに進む年になると楽しみにしています。桜が咲き誇る春には、息子が新たな環境での生活をスタートさせることでしょう。

そして、140年祭に向けての準備も進める中で、家族全員で力を合わせて頑張りたいと思います。この年末年始を通じて、家族の絆が一層深まったと感じています。冬の寒さと共に訪れる新たな一年、家族全員でお互いを支え合いながら前向きに歩んでいきたいと考えています。今年もどうぞよろしくお願い致します。（編集者K）